令和6年度　事業報告　　施設名　　たんぽぽ

事業年度	定員(人)			児童数(延人数)			充足率(%)		延長保育利用人数（延人数）				一時保育	園庭開放他
									30分延長	1/1.5時間延長	2時間延長	日割り	(延人数)	(延人数)
令和5年度　事業報告	12 人	1号		125 人	1号		1号						155 人	4 人
		2,3号	12 人		2,3号	125 人	2,3号	87 %						
令和6年度　事業報告	12 人	1号		136 人	1号		1号						229 人	5 人
		2,3号	12 人		2,3号	136 人	2,3号	94 %						
ヒヤリハット　A(危険度重)B(危険度中)C(危険度軽)				事故報告　(受診を要した件数)					要望・意見・苦情　報告					
A：　3件　B：　8件　C：　4件				2件					要望：　0件　意見：　0件　苦情：　1件					

方針	基本人権の尊重	サービスの質の向上	地域との共生	人材育成
重点目標	≪教育・保育理念≫ 同朋福祉会創立者江川義清の「人は大切。子は宝」の理念をもとに、乳幼児を保育する中、人間尊重と子ども第一主義で子どもの最善の利益を追及し、積極的に福祉の増進を図る	・子ども、家族の支援 ・説明責任の徹底	・地域に開かれた施設 ・子育て支援	・職員の質の向上 ・働きやすい環境づくり
計画(P)	・人権擁護ﾁｪｯｸﾘｽﾄ実施(年2回) ・虐待ﾁｪｯｸﾘｽﾄを実施(年3回) ・子どもの発達に応じておうちのようにほっとし、主体的に遊べる環境を整え支援する ・主体性を尊重し、一人一人の思いを受容する ・養護を大切にした保育を実施	・送迎時、ｴﾋﾟｿｰﾄﾞや一日の様子を必ず保護者に伝える ・保護者参加行事、個別懇談会実施　(年8回) ・ｱﾝｹｰﾄで保護者のﾆｰｽﾞを把握見直し、改善、返答、周知 ・3歳児以降の卒園に向け、適切な支援や説明をする ・重要事項説明会を実施 ・引継ぎ書の作成	・自治会の加入 ・ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ定期投稿(月1回) ・地域開放 ・地域清掃、公園の安全ﾁｪｯｸ ・園の概要チラシを近隣の児童館等に掲示 ・一時保育の実施 （年間目標100人）	・各ﾁｪｯｸﾘｽﾄ実施済。具体例や自身の価値観と今の時代に合う対応について話し互いに注意喚起した ・机や玩具棚は保育内容に応じて移動し、のびのびとした環境を整えた ・関わり方を職員間で共有し、同じ思いの下、保育にあたった
実践内容(D)	・各ﾁｪｯｸﾘｽﾄ実施済。具体例や自身の価値観と今の時代に合う対応について話し互いに注意喚起した ・机や玩具棚は保育内容に応じて移動し、のびのびとした環境を整えた ・関わり方を職員間で共有し、同じ思いの下、保育にあたった	・「元気でした」だけでなく日中の様子を知る職員が必ず対応し、保護者と対話する時間を大切にした ・予定通り実施済 ・遠足について昨年のｱﾝｹｰﾄ結果を参考に行先を決定した ・卒園後の行先について、相談に乗り引継書作成。連携枠に希望した園児全員が入園できた	・自治会加入済 ・ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ投稿数年10回 （R5と比較しﾌｫﾛｰﾜｰ10名増計68名） ・公園の安全ﾁｪｯｸ実施済 ・児童館2箇所にﾁﾗｼを掲示 ・一時保育利用者増 （R5と比較し74名増。 同朋事業所の中で受入数NO.1☆）	・「元気でした」だけでなく日中の様子を知る職員が必ず対応し、保護者と対話する時間を大切にした ・予定通り実施済 ・遠足について昨年のｱﾝｹｰﾄ結果を参考に行先を決定した ・卒園後の行先について、相談に乗り引継書作成。連携枠に希望した園児全員が入園できた
評価(C)	・職員で不適切保育について話す頻度が増えた。これが不適切と言われたら何も声掛けが出来ず保育しづらい等の声が特にベテランの保育士から上がっている ・保育室が一室の為、あそびの充実化を図り、他園の環境を取り入れる等工夫した	・朝夕の送迎時に会話が弾み良好な信頼関係を築くことが出来た ・行事を継続して行うことで、昨年と比較し子どもの成長を喜ぶ保護者の声が多くあった ・連携枠で入園を希望していた2名が、入園できた	・地域清掃に参加した ・玄関にQRｺｰﾄﾞを掲示。UPの際は保護者へ周知した ・児童館利用者が園見学に来園される機会が増えた ・3、4月等、一般的に受け入れづらい時期にも積極的に受け定期利用の獲得に繋がった	・合同で行うことで、活発な発言が見られ良かった ・園児の確保の為にするべきことを理解し取り組めた ・定数+α職員確保で、事務時間の充実化や姉妹園へのヘルプへ多数派遣できた ・行事を合同で行うことで、準備物等を各園で割り振る為、業務省力に繋がった
改善(A)	・ﾁｪｯｸﾘｽﾄ継続的実施。課題が挙がる度に関わり方のﾙｰﾙ決めを行う 人権擁護にかかる研修に参加する ・引き続き園がほっとする第２のおうちのような居場所となるよう努める ・7年度は園児数が少ない為、机や棚を必要数にし、のびのびと活動できるようにする	・日中を共に過ごす職員が送迎時に対応できるのは小規模のﾒﾘｯﾄの為、密に連携を図り、信頼関係を構築する ・例年4月1日に行う入園式を簡素化する。入園式は慣れない場所で慣れない大人に囲まれ、年齢に合った行事でない為改善 ・少子化等の影響で小規模の需要は低調する。選ばれる園となるよう努める事と並行し、事業統合や閉鎖を見据えて準備する	・積極的に参加し地域との関係を深める ・担当者をフォローする役割を設け、負担が偏らないようにする ・土曜日の園開放を六甲道と合同で実施する ・掲示箇所を増やす。在園する保護者のママ友のﾈｯﾄﾜｰｸを活用し園の周知を図る ・一時保育の積極的受入れを継続し入園に繋げる	・短時間職員は、会議に出る機会が少ない為、時間をずらす等して1度は参加する ・情勢を踏まえ「選ばれる園」や需要について意見を出し良い運営に繋げる ・資金に余剰がある際は、職員を定数+αで確保するが、同時に時間の使い方に無駄がないようにする ・面談だけでなく日々の対話を大切にし、職員の思いを捉え運営に繋げる ・合同行事を継続し、業務省力を徹底する